

砂沼周辺地区

(茨城県下妻市)

計画期間 平成24年度～平成28年度

面積 130ha

交付対象事業費 1,812百万円

市人口 42,635人(地区内人口 3,680人)

ポイント 積年の課題を解決する2つの拠点整備、産官学民連携した多様な主体による推進体制確立、整備効果を促進するプレイスメイキング手法の導入。

地区概要 にぎわいの拠点整備による中心市街地の大規模遊休地解消、公共交通と連携した回遊性向上、砂沼広域公園ほか既存ストックを活用した交流拡大により、街なかのにぎわい再生を図る。

目標 大目標：地域の活性化及び市街地再生によるにぎわいのある街づくり

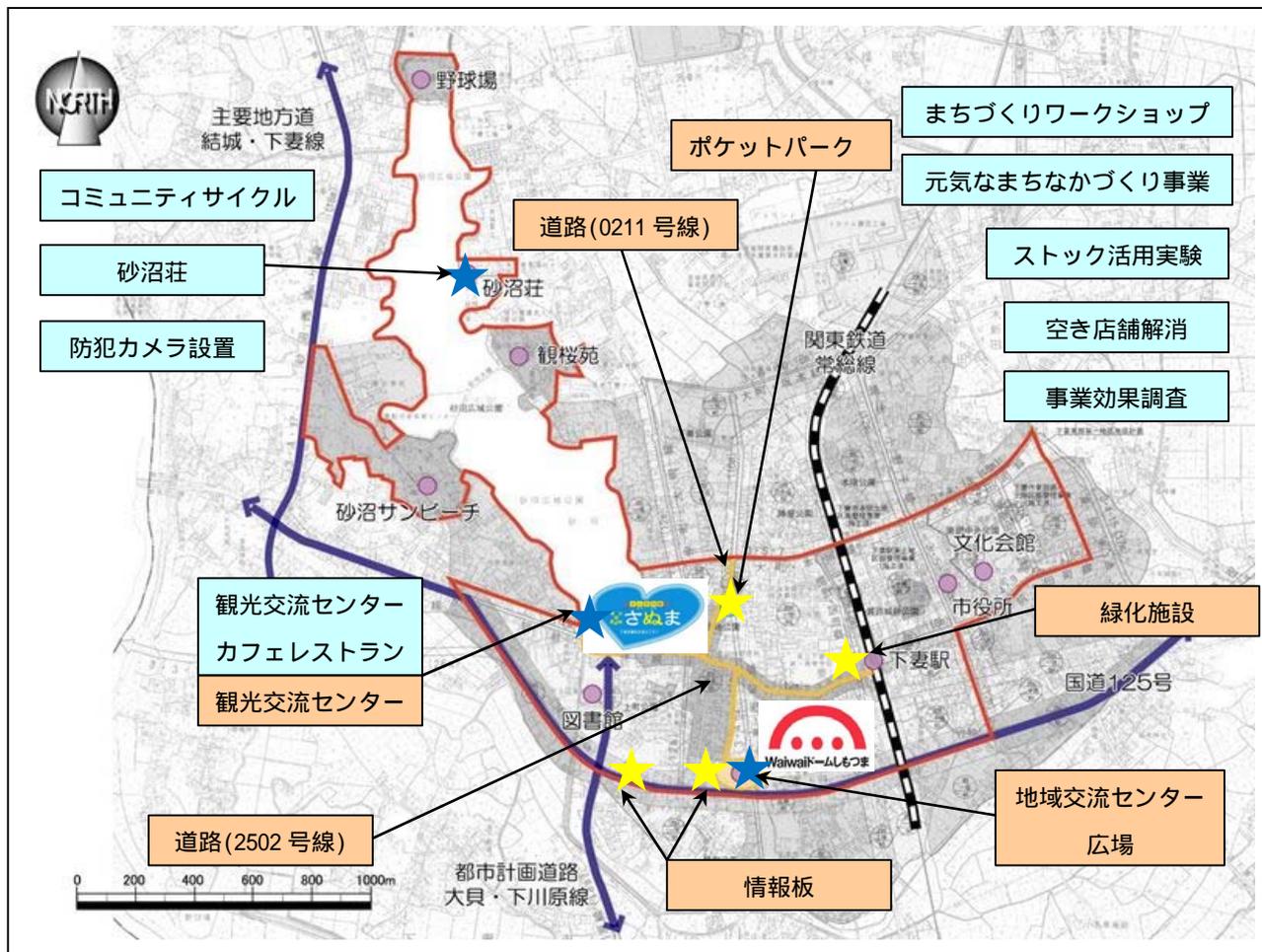
目標1：にぎわいの拠点整備による中心市街地の活性化 目標2：安全・安心で魅力ある移動空間の確保による回遊性の向上 目標3：中心市街地内外の既存ストックの活用及び連携強化による交流の拡大

指標

拠点の整備効果や既存ストックの活用、公共交通施策等と連携した回遊性向上施策の効果を測る目標指標とした。

イベント集客人数	37,000人 (H24)	→	39,000人 (H28)
駅からの歩行者数	325人 (H24)	→	440人 (H29)
公共施設利用者数	205,933 (H23)	→	193,885人 (H28)

事業内容 基幹事業(1,596百万円) 道路(2路線) 地域生活基盤施設(4箇所) 高質空間形成施設(3箇所) 高次都市施設(2箇所)
 提案事業(216百万円) 地域創造支援事業(まちづくりワークショップ他) 事業活用調査 まちづくり活動推進事業(コミュニティサイクル他)



地区の現況と課題

当地区は下妻市のほぼ中央に位置し都市機能や商業が集積する地域である。地区の西側には市のシンボルである砂沼（広域公園）が隣接し、茨城百景に選ばれる景勝地だが、ポテンシャルを活かしきれず、有効活用はまちづくりのテーマの1つであった。また、商業施設の郊外移転により発生した大規模遊休地は以降20年超手付かざるの状況が続き、市街地全体も活力を失い、防犯・防災上も不安視されていた。

提案事業の特徴

観光交流センター併設のカフェ・レストラン

設計段階で民間事業者を公募。選定された(株)坂東太郎は、観光・物産情報や砂沼の魅力発信のほか、高質な空間とサービスを提供、公園利用者の利便性向上や防犯効果などの役割も果たしている。

まちづくりワークショップ(WS)

市民協働で始まったWSは、事業完了時には市民主導へ。まちづくり市民グループ「しもつま3高」、女性ユニット、スケートボード委員会に発展し、様々なまちづくり活動や施設の管理運営に協力。

計画策定プロセス

中活化計画、観光振興基本計画等をもとに整備計画を策定。これらには多くの市民が関わり、当市のまちづくりの念願をかなえる事業である。また、各種のWSを開催し設計段階で市民の声を随所に反映させ、供用開始後を想定した社会実験も行った。

プレイスメイキング

プレイスメイキングの国内第一人者、筑波大学渡和由氏と連携し、座り場、陰り場、借景、防犯などに配慮し事業効果を促進した。

下妻市長のコメント

この度のまち交大賞受賞に際し、多くの方々のご尽力に感謝申し上げます。「砂沼を活かしたまちづくり」と「大規模遊休地の活用」の2つの大きなまちづくりの課題を解決すべく、市民協働により事業を推進した結果、人づくりにも成功したのが特筆すべき事業成果です。当市は地方再生コンパクトシティモデル都市に選出されておりソフト事業を中心とした施策を展開しますが、人口減少や都市のスポンジ化をマイナスと考えず、ゆとりある都市空間をつくり産業を埋め込むチャンスととらえ、市民のクオリティオブライフの向上を図り、魅力ある下妻市を次世代に繋ぎたいと考えております。

市民グループ会長のコメント

砂沼の見慣れた景観がオープンカフェの誕生により『あの有名な富山のカフェより美しい』と言われる絶景に変貌し、Waiwaiドームと共に今回の《まち交大賞》受賞となりました。

『じゃあおらの街でも・・・』なんて建物だけを真似しても駄目ですよ(笑) チーム《しもつま3高》はマルシェ経験者、IT関連やダンス・音楽・料理等多くの特技を持った方々に加えて、街作りのプロや辛口な市民・遊びの達人等が集い、イベントの都度仲間が増えていきます。失敗例に多い有識者のみの団体ではありません。となると『纏めるのが大変では?』との声もありますが、市担当者の熱い思いの下で皆が奮闘しております。やはり最後は人なんですな。



観光交流センター 窓越しの遠景と自習する学生



にぎわい広場 床絵×マルシェ×ステージ



プロスケーターによるスケートボードスクール



まちづくり市民グループ「しもつま3高」の活動拠点「café & studio かふえまる」